

- 問1 1895年に日清戦争の講和条約である下関条約が結ばれた直後、ロシア、ドイツ、フランスの3国が、日本が獲得した領土の一部を清に返還するよう要求した外交介入を何というか。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
1. 日英同盟                      2. ポーツマス条約                      3. ワシントン会議                      4. 三国干涉
- 
- 問2 明治政府が群馬県に「富岡製糸場」を建設し、全国から工女を集めて操業を開始した主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
1. 欧米の最新技術を工女たちに習得させ、その後、彼女たちが地元に戻ることで全国へ近代的な製糸技術を普及させるため。
2. 輸入が急増していた安価な綿製品に対抗するため、国内産の綿花の品質を改良し、機械による綿糸の大量生産を定着させるため。
3. 不平等条約の改正を求めるため、欧米の視察団に対して日本の伝統的な手作業による絹織物技術を披露する場とするため。
4. 北海道の開拓に従事する屯田兵の家族に対して、冬の間の貴重な現金収入を得るための副業の機会を直接提供するため。
- 
- 問3 明治政府が1873年に実施した「地租改正」の目的と内容について述べた文として、正しいものはどれか。 (2021年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 豊作や不作に左右されず政府が安定した税収を得るため、地価を基準に土地所有者が現金で納税するようにした。
2. 土地の売買を自由化して農業を近代化するため、地価の3%を収穫した米で納めるようにした。
3. 農民の負担を軽減して生活を安定させるため、収穫した農作物の一定割合を村ごとにまとめて納めるようにした。
4. 欧米諸国にならって身分制度を撤廃するため、すべての国民に所有地の広さに応じた軍役を課すようにした。
- 
- 問4 日清戦争後の外交関係において、「三国干涉」が日本に与えた影響やその内容を説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. ポーツマス条約の締結を阻止し、日本が清から多額の賠償金を得ることを妨害するための軍事介入であった。
2. 下関条約によって日本が清から得た権利のうち、遼東半島の領有をあきらめ清へ返還するよう求める外交圧力であった。
3. 日本が清から得た台湾の領有を認めない代わりに、ロシアが日本に対して多額の借款を与えるという提案であった。
4. 日英同盟の成立を恐れたロシア・ドイツ・フランスが、日本に対して清との和平交渉をやり直すよう求めた通告であった。
- 
- 問5 1881年、明治政府による「国会開設の勅諭」が出されたことを受け、将来の国会開設に備えて板垣退助を党首として結成された、日本で最初の政党を選びなさい。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
1. 自由党                      2. 立憲政友会                      3. 立憲改進党                      4. 愛国公党
- 
- 問6 明治政府が長年の課題としていた不平等条約の改正について、1911年にアメリカとの交渉によって関税自主権の完全な回復を成し遂げた外務大臣は誰ですか。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 小村寿太郎                      2. 陸奥宗光                      3. 岩倉具視                      4. 井上馨
- 
- 問7 1902年に日本がイギリスとの間で「日英同盟」を締結した主な背景と目的について述べたものとして、最も適切なものはどれか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
1. 日清戦争に勝利した日本に対し、遼東半島の返還を求めて圧力をかけてきたドイツの軍事行動を共同で抑えること。
2. 中国大陸の東北部（満州）や朝鮮半島へ勢力を伸ばそうとするロシアを牽制し、その進出を阻止すること。
3. 清に対して二十一条の要求を認めさせるために、イギリスから外交的な支持を取り付けること。
4. 東南アジアでの植民地支配を強めるフランスに対抗し、日本のアジアにおける地位を安定させること。
- 
- 問8 1858年の日米修好通商条約から1894年の日清戦争に至る明治前期の外交史において、1875年にロシアとの間で北方の国境を確定させるために結ばれた条約はどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 樺太・千島交換条約                      2. 下関条約                      3. ポーツマス条約                      4. 日露和親条約
- 
- 問9 1890年代後半に綿糸の輸出量が輸入量を上回るという劇的な変化が起きましたが、この現象が日本の経済史において持つ意義として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
1. 欧米諸国との不平等条約を改正するために、あえて輸入を制限して貿易黒字を演出した結果である。
2. 国内の綿糸生産が需要を大幅に超えたため、政府が強制的に海外へ在庫を売却する政策をとったことを示している。
3. 海外から原料を輸入し、国内で工業製品に加工して輸出するという加工貿易の国へ成長する第一歩となった。
4. 重化学工業の発展により、機械類を輸入に頼らず自国で全てまかなえるようになったことを示している。
- 
- 問10 1885年にそれまでの太政官制に代わって導入された、近代的な行政機構である内閣制度において、初代の内閣総理大臣に就任した人物は誰ですか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
1. 大隈重信                      2. 松方正義                      3. 伊藤博文                      4. 山県有朋
- 
- 問11 大日本帝国憲法が公布された1889年から、第一次世界大戦が終結に向かう1917年までの期間、日本は外交上の課題として不平等条約の改正を進めていました。この時期の外交に関して、1894年の出来事として正しい説明はどれですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
1. 外相の小村寿太郎が日米通商航海条約を調印し、関税自主権の完全回復に成功した。
2. 外相の陸奥宗光が日英通商航海条約を締結し、領事裁判権の撤廃に成功した。
3. 下関条約の締結により、清から遼東半島や台湾を譲り受けることが決まった。
4. 外相の井上馨が極端な欧化政策を取り、鹿鳴館での外交を通じて条約改正を目指した。
- 
- 問12 1895年、日清戦争の講和条約である下関条約によって日本が譲り受けた遼東半島に対し、ロシア、ドイツ、フランスの3国が清へ返還するよう日本に圧力をかけた出来事を何といいますか。 (2024年 島根県公立入試 類似)
1. 三国協商                      2. 三国干涉                      3. 三国同盟                      4. ポーツマス条約
- 
- 問13 明治時代における就学率の推移について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 日清・日露戦争の影響で、明治時代末期にかけて就学率は大幅に低下した
2. 男子の就学率は最初から100%に達していたが、女子は明治時代を通じて50%を超えることはなかった
3. 学制が公布された直後から、男女ともに就学率は90%を超えていた
4. 制度開始当初は男女の差が大きかったが、1900年ごろには男女ともに就学率がほぼ100%に達した